

戻り、下期は建設分野の需要回復が生産を下支えした。炉別生産では転炉鋼が前年度比2.0%増の8,285万トン、電炉鋼が同3.1%減の2,445万トンとなり、電炉鋼比率は22.8%と前年度比0.9ポイント低下した。一方、鋼種別の生産量は、普通鋼が前年度比2.3%増の8,386万トン、特殊鋼が同4.2%減の2,344万トンで、自動車関連需要の減速を背景に、特殊鋼が伸び悩んだ。

財務省が発表した3月の鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比4.8%増の404万1,000トンとなり5カ月連続で前年を上回った。月間400万トン台は2011年3月以来2年ぶりとなる。一方、輸入は同14.6%減の54万2,000トンと6カ月連続の減少となった。

この結果、2012年度の全鉄鋼輸出は前年度比9.6%増の4,341万7,000トンとなり、2010年度の4,323万トンを超え過去最高を更新した。地域別輸出では、アジアが同9.6%増の3,459万2,000トン、うちNIE'sが2.3%増の1,318万4,000トン、ASEANが22.8%増の1,361万4,000トンと増加したが、中国は日中関係の悪化が影響して7.1%減の593万1,000トンと減少した。中東は15.6%増の186万8,000トン、米国が9.9%増の228万と増加したが、金融不安に揺れたEUは19.3%減の33万トンと落ち込んだ。一方、輸入は円安が逆風となり、前年度比7.9%減の745万2,000トンとなり、3年ぶりに減少した。輸入内訳はアジアが5.4%減の617万トンで、うち中国は16.6%減の115万6,000トン、NIE'sが1.3%減の467万8,000トンとなっている。

◆4～6月期粗鋼需要、2,638万トン

経済産業省が策定した2013年度第1四半期(4～6月)の鋼材需要見通しによると、需要相当の粗鋼生産量は前期(見込み)比24万トン、0.9%減の2,638万トンとなっている。鋼材需要の見通しでは前期比2.3%減の2,349万トンで、うち普通鋼が同2.8%減の1,889万トン、特殊鋼が同0.4%減の461万トンとしている。普通鋼の国内需要は同3.6%減(前年同期比3.6%減)の1,168万トン、輸出向けが同1.6%減(同8.7%増)の721万トンと見込んでいる。

国内需要のうち製造業では、自動車向けはエコカー補助金終了による反動と季節要因から前月比5.4%減(前年同期比9.6%減)の274万トン、造船向けは需要が低調で同5.3%減(同24.2%減)の93万トン、産業機械向けは同1.8%増(同5.8%減)の116万トン、電気機械向けは同4.3%減(同2.6%減)の73万トンとしている。建設部門では、公共土木向けは補正予算と本予算の早期執行で前年同期比では9.6%増となるものの、季節要因で前期比では16.6%減、民間土木向けは設備投資の回復から前年同期比では9.7%増となるが、前期比では季節要因で7.0%減とみている。土木合計では前期比16.1%減(前年同期比9.1%増)の135万トンと見込んでいる。住宅建築は消費税増税の駆け込み需要が見込まれ前期比5.7%増(前年同期比7.0%増)、非住宅建築は倉庫などが好調で同1.7%増(同3.1%増)で、建築合計では同2.6%増(同4.6%増)の357万トンを見込んでいる。建設部門全体では同3.3%減(同5.8%増)の492万トンと見通している。

普通鋼鋼材の輸出は前期比ではマイナスになるものの、円安による採算改善を反映し、高水準を維持する。特殊鋼は、内需は自動車生産の季節的な減少などで2期ぶりに減少し、輸出は円高修正、在庫調整の進展などで4期ぶりに増加に転じる。

◆活性化機構、中山製鋼を支援

電炉メーカーの中山製鋼所は3月28日、地域活性化支援機構に事業再生計画を提出し、

同日機構から決定の通知を受け、機構の支援を受けた再建をスタートさせると発表した。計画骨子は関係金融機関などに約602億円の債権放棄を依頼し、金融機関からの単体債務を908億円から306億円に圧縮する。併せて新日鉄住金、阪和興業、日鉄商事など6社を引受先とする役90億円規模の第三者割当増資を行なう。

中山製鋼所は電炉・単圧メーカーで、自社で熱延・酸洗・縞コイル・棒線などを生産・販売している。もともと高炉を有し、高炉時代の高コスト体質に加え、リーマンショック後の不況による急速な需要減退、円高による輸入材の攻勢を受け、販売数量が減少し、経営が悪化した。事業再生計画は、①生産の2割削減や不採算品種・事業の撤退、安価材料への切り替え、工場運営効率化など業界トップクラスのローコスト経営、②グループ経営強化による総合力発揮、③金融機関による債権放棄で有利子負債を306億円に削減、増資引き受けなどで財務体質を健全化する――を挙げている。

◆2013年・2014年世界鋼材需要、最高更新――WSA見通し

世界鉄鋼協会（WSA）が策定した2013年及び2014年の世界の鋼材見掛消費の短期予測によると、2013年は前年比3.2%増の14億5,400万トン、2014年は同3.2%増の15億トンとそれぞれ過去最高を更新する。

2013年の世界需要のうち46%を占める中国は前年比3.5%増の6億6,880万トン、2014年は同2.5%増の6億8,600万トンと予測している。他の新興国ではインドは2013年が5.9%増の7,580万トン、2014年が7.0%増、ロシアは2013年が2.6%増の4,290万トン、2014年が3.9%増、ブラジルは2013年が4.3%増の2,620万トン、2014年が3.8%増と見通している。中国を含む新興国全体では2013年が3.9%増の10億6,300万トン、2014年が3.5%増の11億100万トンと見通している。

表1 世界の鋼材見掛け消費量見通し

(単位:100万トン, カッコ内は前年比増減率%)

	2012年	2013年	2014年
EU-27カ国	140 (△9.3)	139 (△0.5)	144 (3.3)
その他欧州	35 (4.1)	37 (6.1)	38 (4.1)
CIS	56 (3.3)	58 (2.0)	60 (3.8)
NAFTA	131 (7.8)	135 (2.9)	139 (3.0)
中南米	47 (2.6)	50 (6.2)	52 (4.3)
アフリカ	27 (7.1)	29 (8.1)	31 (7.6)
中東	49 (△1.2)	49 (0.8)	52 (6.1)
アジア・オセアニア	928 (1.8)	957 (3.2)	984 (2.8)
世界計	1,413 (1.2)	1,454 (2.9)	1,500 (3.2)
先進国	389 (△1.9)	390 (0.4)	400 (2.3)
新興国	1,024 (2.5)	1,063 (3.9)	1,101 (3.5)
中国	646 (1.9)	669 (3.5)	686 (2.5)
BRIC	785 (1.9)	814 (3.7)	838 (3.0)
中東・北アフリカ	63 (2.2)	65 (3.2)	70 (7.1)
中国除く世界計	766 (0.7)	785 (2.4)	815 (3.8)

先進国では、EU27が2013年には前年比0.5%減の1億3,900万トンと需要減退が続くが、2014年には3.3%増の1億4,400万トンと3年ぶりの増加に転じるとみている。米国は2013年には2.7%増の9,930万トン、2014年には2.9%増と7年ぶりに1億トンの大台に乗せると見通されている。日本は2013年が2.2%減の6,260万トン、2014年にも0.6%減と連続して減少するとみている。先進国トータルでは2013年が0.4%増の3億5,700万トン、2014年が2.3%増の4億トンとなるとみている。 □